



『まえだとし女 全句』

まえだとし女

鈴らん通アスパラガスの華奢なこと
菠薐草三把まとめて橋の際
お浸しをなつかしいとやはうれん草

八丁堀の小店にといと菠薐草
茶道部のおほかた二十歳淑気かな
成人の日や食堂の子の家で
「返すのが東京」バレンタインの日
古里をテレビ画面に春来る
下校後に待受けてゐる土間の鮫
置去りの鮫の小さくしづお土間
冬灯サメに経緯をたづねたく
大叔母とサメのその後や初寢覚
一面のサメの説明初写真
黒と茶の両面の帯冬終る

『まえだとし女 全句』

